

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■124■

移動できるように勾配が緩くなっている。高崎市の倉賀野や吉井などには道沿いに古い家並みが残っているの、そこを通っていた昔の人たちの姿を想像するのも楽しい。

と微妙な上り下りがある。楽しんでサイクリングを目指しているの、上り坂は避けたい。こういう時には「むかし道」を辿ると楽しい。

「むかし道」は曲がりくねっていて見通しは悪いが、それも楽しみの一つ。

でも地図に「むかし道」と書いてあるわけではないので自分で探す必要がある。分かれ道に来たら狭くて勾配が緩そうな方

そんな風に楽しみながら小幡に到着。残念ながら桜はまだ咲いていなかったが、武家屋敷の街並みは素晴らしかった。楽山園では、明治以降に民間に払い下げられ、田畑として使われていた頃の写真もを見せてもらった。長い時間をかけて庭園を復興させた人々の努力は本当にすごいと思う。

「むかし道」辿る楽しさ

帰りものんびり走っていたら、異勢初

し道を辿ると楽しい。自動車も普及してから造られた道は、幅が広くて走りやすそうに見えるが、エンジンの馬力で坂を上ることを前提にしているの、でアップダウンが多い。

人によって考えは違ふと思うが、私は見通しの良い道は先が分かってしまっただけで、思いつくように角を曲がった先に予想

を選ぶ。ルート選択で失敗することもあるが、経験を通じて「たぶんこっちは」と判断できるように

なる。春の一日になった。

春のサイクリング

でも私は花粉症なのでこの時期に屋外で長く過ごすのは恐怖。しばらく悩んだが「楽しい方が優先！」とレンタカーをキャンセルして自転車で行くことにした。

前橋から甘楽までの道のりはほとんど平坦と思

っていたが、走ってみると

これに比べて、牛馬や

人力が主役だった頃に造られた「むかし道」は楽に



肥後秀明 (ひご・ひであき)

1969年生まれ

茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局審査企画課長兼上席審査

役、金融機構局審査運営課長兼上席審査役などを歴任。2022年4月から現職。